研究者：寺谷　　豪（所属：九州歯科大学　保健医療フロンティア科学分野）

研究題目：血液透析患者の口腔と全身健康に関する研究

目　的：

我が国の血液透析患者は2009年に29万人を突破し，今後ますます増加していくと考えられている。また，そのうちの約半数が5年以上の長期透析患者であり，今後もその割合は増加していくと予想されている。それに伴って近年，血液透析患者の口腔健康状態に関する報告が多くなされているが，血液透析患者の長期間の追跡調査における口腔健康状態の変化については，現在までのところ報告は少ない。そこで，本研究では血液透析患者の追跡調査を行うことで，血液透析患者の口腔健康状態の変化ならびに，長期間の血液透析が口腔健康状態に与える影響について明らかにすることを目的とした。

対象および方法：

北九州市内に某病院で血液透析を受けている患者を対象に1994年ならびに2008年に健康調査とその追跡調査を行った。第1回調査受診者251名のうち，第2回調査を受診した49名を対象に14年間での歯周健康状態の変化を調査し解析を行った。(図)。

両調査ともに口腔内診査は，WHOの診査基準に基づき，全歯を対象に行い，歯周組織検査は，智歯，残根，コーピング歯を除く全歯を対象とし，頬側の中央，近心のプロービングポケット深さ，アタッチメントロス，プロービング時の出血部位の測定を行った。4 mm，6 mm以上のプロービングポケット深さの部位の割合をそれぞれPPD，PPD6として，同様に4 mm，6 mm以上のアタッチメントロスの部位の割合をそれぞれCAL，CAL6とし，プロービング時の出血部位の割合をBOPとして解析を行った。2008年調査時点での49名の対象者のプロフィールを表1に示す。解析にはSPSS 11.0 J for Windowsを用いて行った。

結果および考察：

1994年，2008年の口腔健康調査の結果を表2に示す。14年間で現在歯数は有意に減少し（$p < 0.01$），PPD，CAL，CAL6は有意に増加していた（$p < 0.01$）。我々は2009年に日本口腔衛生学会にて，2008年の調査結果の解析から，対照群と比較して現在歯数が有意に少なく，CAL，BOPが高くなるという報告を行った。本研究の結果においても，ベースラインの段階で，PPD，BOPに比べてCALは高く，14年間の時間の中でPPD，BOP，CALのいずれも悪化しているものの，CALが高いという傾向が維持されていた。また，BOPの増加もPPDに比べて大きい傾向がみられた。これらの結果から，血液透析患者では，健常者と比較してCAL，BOPは高い傾向があり，それは時間の経過とともに増悪していく可能性が示された。よって，血液透析患者の口腔健康状態の維持・向上のために，より早期の段階で適切な歯科的な介入をする必要性が示唆された。しかしながら，本研究では対照群を設定しておらず，この変化が血液透

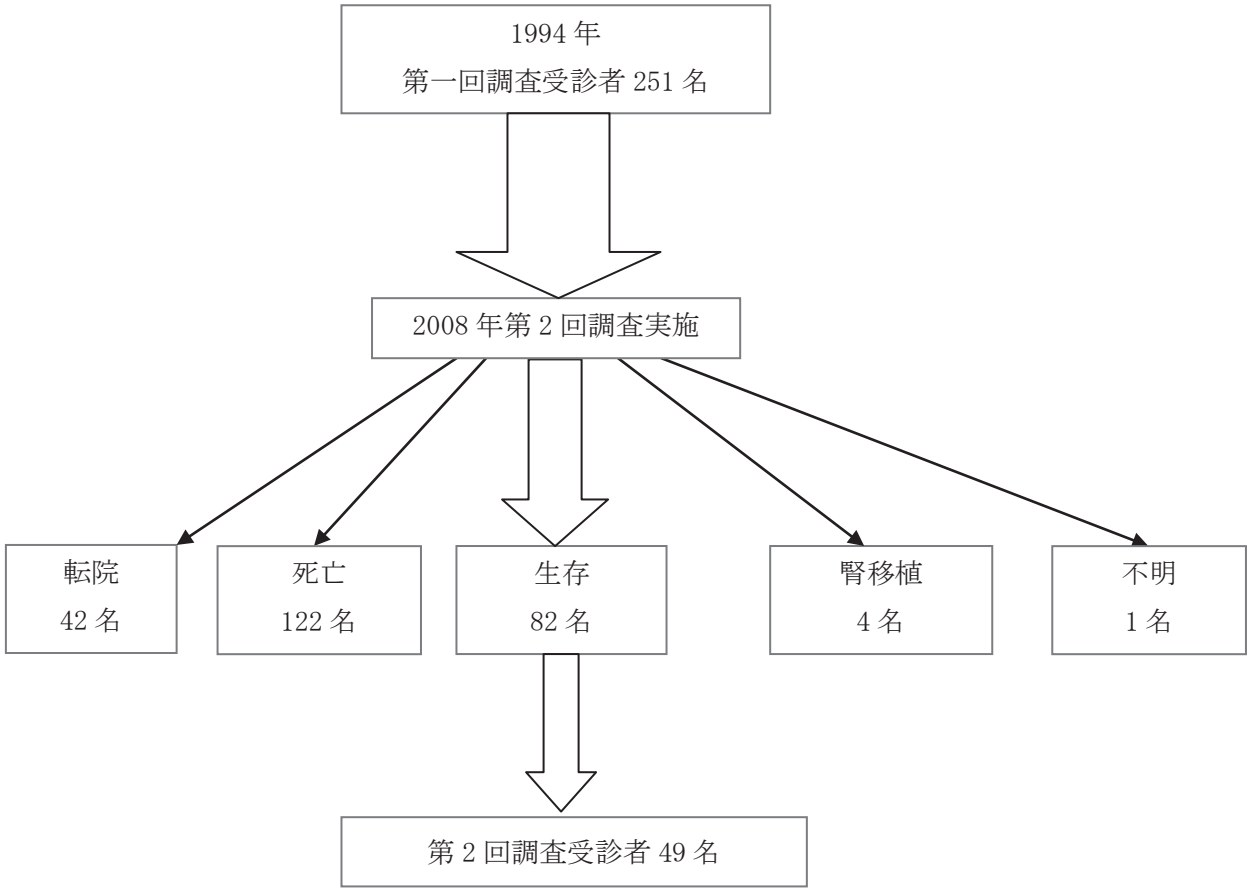


図　追跡対象者の転帰

表 1　追跡調査受診者 49 名の 1994 年時点でのプロフィール

Parameters	
年齢（SD）	49.7（7.3）
男性/女性	27/22
喫煙者（%）	14.3
透析期間（SD）	119.6（85.0）
原疾患	
糖尿病性腎症	1
慢性糸球体腎炎	43
ループス腎炎	1
Ig-A 腎症	2
多発性腎嚢胞	1
水腎症	1

表 2　腔健康状態の変化

Parameters	1994 年	2008 年
現在歯数	26.90 ± 3.54	24.29 ± 6.17**
PPD	0.98 ± 2.62	4.31 ± 8.06**
PPD6	0.15 ± 0.50	0.46 ± 1.46
CAL	8.58 ± 17.09	22.63 ± 24.94**
CAL6	1.69 ± 6.17	6.15 ± 13.72**
BOP	0.99 ± 2.45	7.87 ± 12.67**

PPD：4 mm 以上のプロービングポケット深さの部位の割合，PPD6：6 mm 以上のプロービングポケット深さの部位の割合，CAL4：4 mm 以上のアタッチメントロスの部位の割合，CAL6：6 mm 以上のアタッチメントロスの部位の割合，BOP：プロービング時の出血部位の割合

**$p < 0.01$, paired t-test

析患者に特徴的なものなのかは本研究からはわからないため，今後さらなる研究を進めていく予定である。

成果発表：（予定を含めて口頭発表，学術雑誌など）

2011 年 10 月　日本口腔衛生学会 「血液透析患者の 14 年間の口腔健康状態の変化」